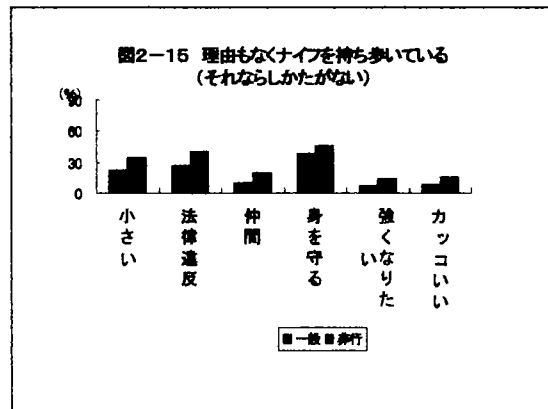


これを図示すると、図2-15のとおりである。

いずれの合理化条件についても、非行群の少年の方が一般群の少年よりもナイフを持ち歩くことを合理化していることを容認する傾向がある。

また、おどされていて自分の身を守る必要がある場合、つまり、必要があつて護身用にナイフを持ち歩く場合には「それならしかたがない」と容認する者は、一般群では約38%、非行群では約45%いる。



以上6つの行為のそれぞれについて、合理化条件別の容認の程度をみてきた。行為によって、どのような合理化を容認するかはバラバラである。しかし、6つの行為のすべてにおいて、また、すべての合理化条件において、一般群の少年と非行群の少年を比較すると、非行群の少年の方が合理化を容認する割合が高い。

4 社会的逸脱行動に対する悪質意識

ここでは、いろいろな犯罪や不良行為に対してどのくらいの悪質意識を持っているのかを尋ねた結果について述べる。回答は、全く悪質でないを0とし、極めて悪質だと思ふを10としたとき、あてはまる番号1つを選択するよう求めた。

(1) 犯罪行為

犯罪行為については、次の11の行為について回答を求めた。

- ア 店から品物を黙って持ってくる【万引】
- イ 他人の自転車を勝手に乗る【自転車盗】
- ウ 公道でオートバイの無免許運転をする【無免許運転】
- エ 高校生が見知らぬ人とセックスをしてお金を得る【売春】
- オ 理由もなく刃物を持ち歩く【銃刀法違反】
- カ おどかして人のお金を取り上げる【恐喝】
- キ ケンカをして相手にケガをさせる【傷害】
- ク 覚せい剤(エス・スピード)を使用する【覚せい剤】
- ケ 幼い子に性的ないたずらをする【強制わいせつ】
- コ 留守中の他人の家に入ってお金を取る【侵入盗】

サ 持っていた刃物で人を刺す【人を刺す】

これらの行為について、一般群、非行群の得点を合計して平均を求め、その平均点を悪質度得点とし、得点の高い順に並べると以下ようになる。

一般群

人を刺す(9.59) > 侵入盗(9.34) > 覚せい剤(9.10) > 強制わいせつ(8.83) > 恐喝(8.43)
 > 万引(7.80) > 売春(7.62) > 無免許運転(7.45) > 自転車盗(7.02) > 銃刀法違反(7.00) > 傷害(5.97)

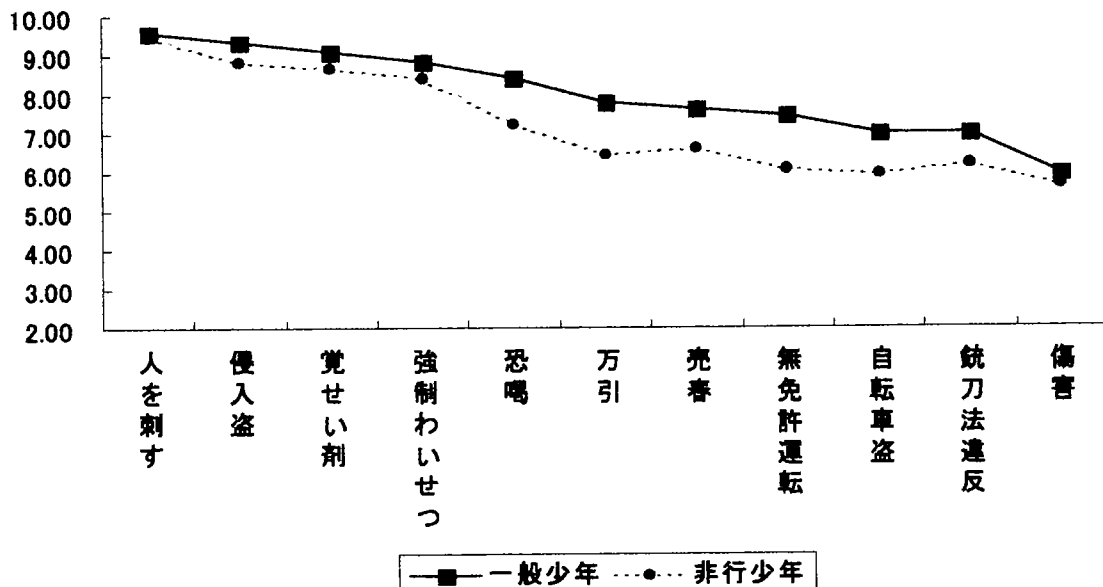
非行群

人を刺す(9.45) > 侵入盗(8.85) > 覚せい剤(8.68) > 強制わいせつ(8.43) > 恐喝(7.26)
 > 売春(6.64) > 万引(6.44) > 銃刀法違反(6.22) > 無免許運転(6.10) > 自転車盗(5.94) > 傷害(5.67)

これを図示すると図2-16のようになる。それぞれの犯罪行為に対する悪質度得点は、一般群の少年の方が非行群の少年より高い得点であった。つまり、一般群の少年は、非行群の少年と比較したとき、同じ犯罪行為に対してより悪質だという意識を持っているといえる。特に、恐喝や万引、売春、無免許運転、自転車盗に対しては、概ね1ポイント以上の差で一般群の少年の方が悪質だと考えている。

また、11の犯罪行為の悪質度得点を高得点順に並べると、一般群と非行群では若干の順位の違いはあるが、大体において犯罪の悪質性の評定に関して大きな違いはない。

図2-16 犯罪行為に対する悪質度



(2) 不良行為

不良行為については、次の12の行為について回答を求めた。

- ア 高校生が親にかくれて家でタバコを吸う【家での喫煙】
- イ 高校生が親にかくれて家で酒を飲む【家での飲酒】
- ウ 高校生が列車の中でタバコを吸う【列車での喫煙】
- エ 学校をサボる【怠学】
- オ 夜遊びをする【深夜徘徊】
- カ 親に無断で外泊をする【無断外泊】
- キ 家出をする【家出】
- ク 高校生がパチンコ店でパチンコをする【パチンコ】
- ケ 高校生が親にかくれてカラオケボックスで酒を飲む【カラオケでの飲酒】
- コ 高校生が親にかくれて店で酒を飲む【店での飲酒】
- サ 見知らぬ人とカラオケなどに行ってお金をもらう【援助交際】
- シ 弱い者いじめをする【いじめ】

これらの行為について、一般群、非行群の得点を合計して平均を求め、その平均点を悪質度得点とし、得点の高い順に並べると以下ようになる。

一般群

いじめ(8.03) > 列車での喫煙(6.99) > 援助交際(6.65) > 店での飲酒(6.40) > 家での喫煙(6.16)
> カラオケでの飲酒(5.75) > 家での飲酒(5.59) > パチンコ(5.57) > 無断外泊(5.38)
> 家出(4.81) > 深夜徘徊(4.74) > 怠学(4.69)

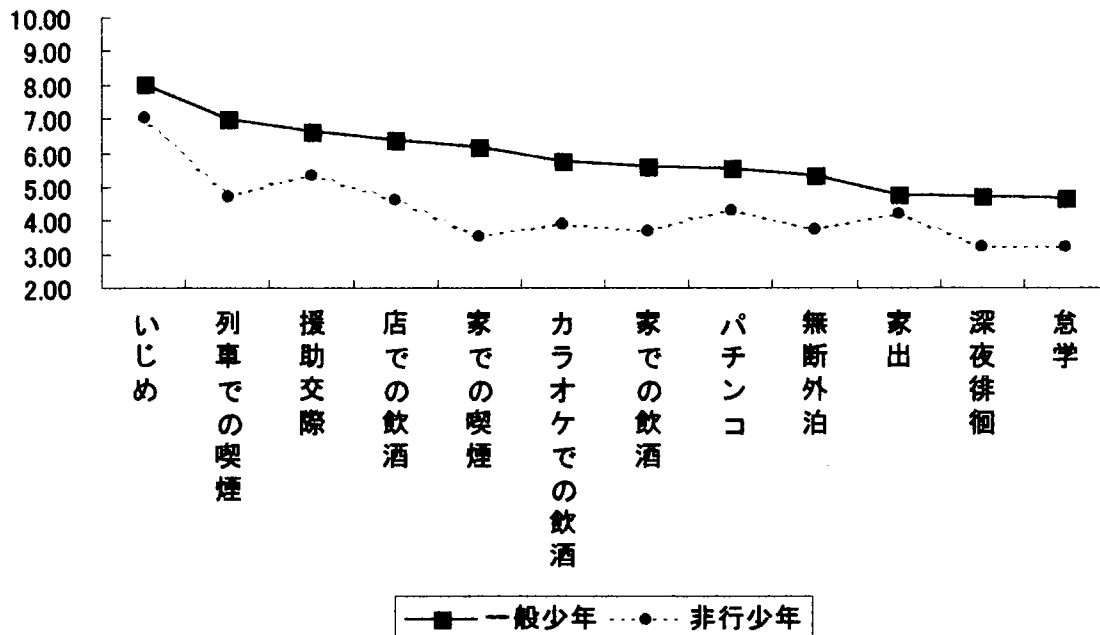
非行群

いじめ(7.07) > 援助交際(5.33) > 列車での喫煙(4.74) > 店での飲酒(4.63) > パチンコ(4.31)
> 家出(4.22) > カラオケでの飲酒(3.91) > 無断外泊(3.78) > 家での飲酒(3.69)
> 家での喫煙(3.53) > 深夜徘徊(3.23) > 怠学(3.23)

これを図示すると図2-17のようになる。全体的にみると、犯罪行為に対する悪質度得点より不良行為に対する悪質度得点のほうが低い。それぞれの不良行為に対する悪質度得点は、一般群の少年の方が非行群の少年より高い得点であった。つまり、犯罪行為に対するものと同様に、一般群の少年は、非行群の少年と比較したとき、同じ不良行為に対してより悪質だという意識を持っているといえる。しかも、家出を除くすべての不良行為に対して、概ね1ポイント以上一般群の少年の方が悪質度得点が高い。

また、12の不良行為の悪質度得点を高得点順に並べると、一般群と非行群では順番にばらつきがあり、犯罪に対する悪質意識でみられたような両群が同じ傾向を示しているということは、不良行為に対してはいえない。

図2-17 不良行為に対する悪質度



(3) 反道徳的行為

反道徳的行為については、次の4つの行為について回答を求めた。

- ア 親との約束を破る【親との約束違反】
- イ 道路にゴミを捨てる【ゴミを捨てる】
- ウ 友達との約束を破る【友達との約束違反】
- エ 校則を破る【校則違反】

これらの行為について、一般群、非行群の得点を合計して平均を求め、その平均点を悪質度得点とし、得点の高い順に並べると以下のようなになる。

一般群

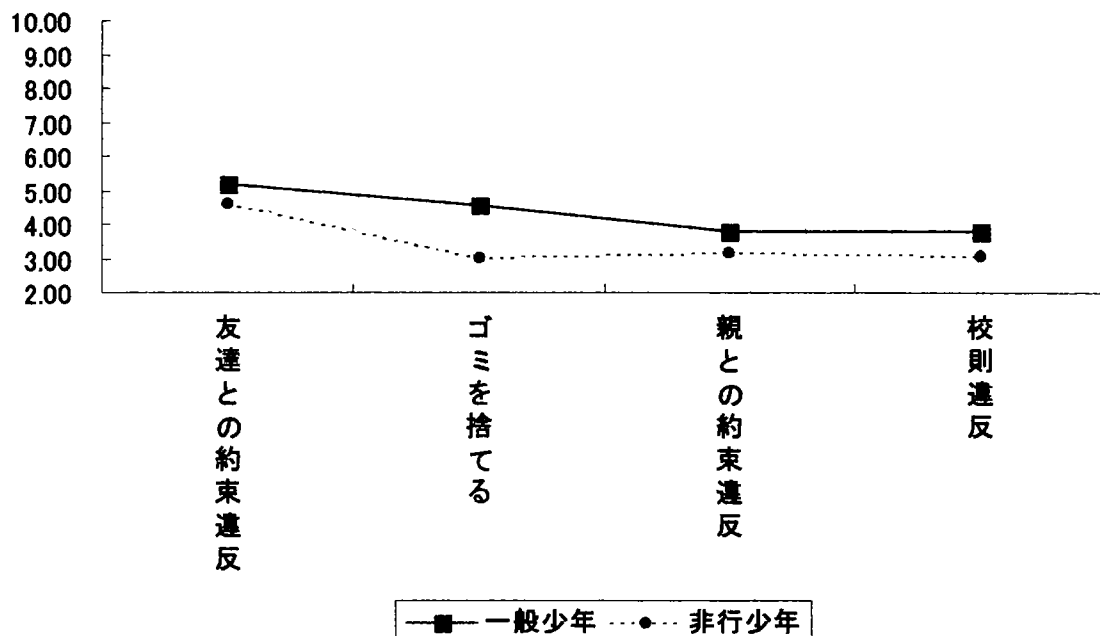
友達との約束違反 (5.18) > ゴミを捨てる (4.58) > 親との約束違反 (3.81) > 校則違反 (3.77)

非行群

友達との約束違反(4.61) > 親との約束違反(3.18) > 校則違反(3.09) > ゴミを捨てる(3.05)

これを図示すると図2-18のようになる。それぞれの反道徳的行為に対する悪質得点は、一般群の少年の方が非行群の少年より高い得点であり、ゴミを捨てるに対する悪質得点の差が一番大きく(1.53ポイント差)、他の3つの反道徳的行為については、概ね0.5ポイントの差であった。したがって、一般群の方が非行群より、反道徳的行為に対して悪質意識を持っていることを示している。

図2-18 反道徳的行為に対する悪質得点



5 メディア情報に対する同調の程度

ここでは、少年の事件がテレビのニュースや新聞の記事で報道され、それを見聞したときどのくらい同調するのかによって、少年の規範意識を測定する。

テレビニュースや新聞で、中・高校生による生徒間暴力、中・高校生による対教師暴力、少年によるナイフ使用、暴走族による暴走行為、中・高校生による覚せい剤使用、中・高生の自殺、中・高校生による万引、中・高生の列車内喫煙、中・高校生による親への暴力、の9の事件が報道されたのを見聞したとき、どのくらい同調しやすいのかをみる。

(1) 中・高校生による生徒間暴力

中学や高校で、生徒どうしがケガをするほどの殴り合いをするという事件の報道を見聞したと仮定した場合、以下の3つの感想の中から1つを選択するよう求めた。

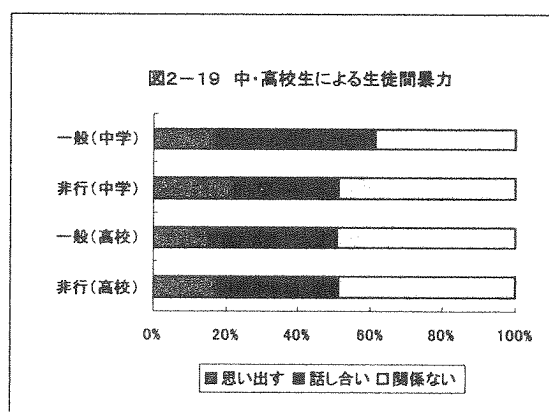
ア 殴ってやりたい生徒がいることを思い出す【思い出す】

イ 話し合いで解決すべきだと思う【話し合い】

ウ 自分とは関係ないことだと思う【関係ない】

結果は、図2-19のとおりである。

高校生では、一般群・非行群とも同じ傾向を示しており、関係ないと思う者が約半数、話し合いで解決すべきとする者が約1/3である。中学生では、話し合いで解決すべきとする者が、一般群が約44%に対して非行群が約29%であり、一方、殴ってやりたい生徒がいることを思い出すと回答した者が、一般群が約16%に対して非行群は約22%である。一般群の中・高校生や非行群の高校生と比較すると、非行群の中学生の方が、若干ではあるが、生徒どうしの殴り合いの事件報道に同調する傾向が見られる。



(2) 中・高校生による対教師暴力

中学や高校で、生徒が先生を殴るという事件の報道を見聞したと仮定した場合、以下の3つの感想の中から1つを選択するよう求めた。

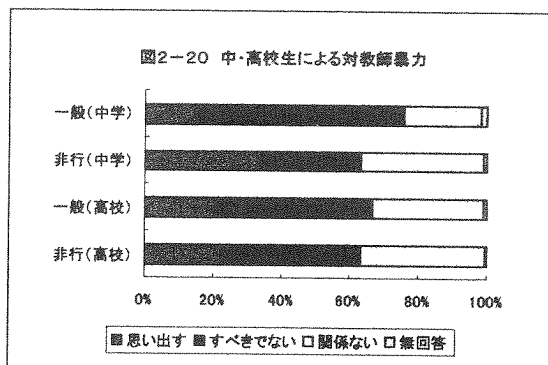
ア 殴ってやりたい先生がいることを思い出す【思い出す】

イ そんなことはすべきではないと思う【すべきでない】

ウ 自分とは関係ないことだと思う【関係ない】

結果は、図2-20のとおりである。

高校生では、一般群・非行群とも同じ傾向を示しており、関係ないと思う者が約1/3、すべきでないとする者が40%台である。中学生では、すべきでないとする者が、一般群が約60%に対して非行群は約30%であり、一方、殴ってやりたい先生がいることを思い出すと回答した者が、一般群の約15%に対して非行群は約34%である。



一般群の中・高校生や非行群の高校生と比較すると、非行群の中学生の方が教師を殴るという事件報道に同調する傾向が見られる。

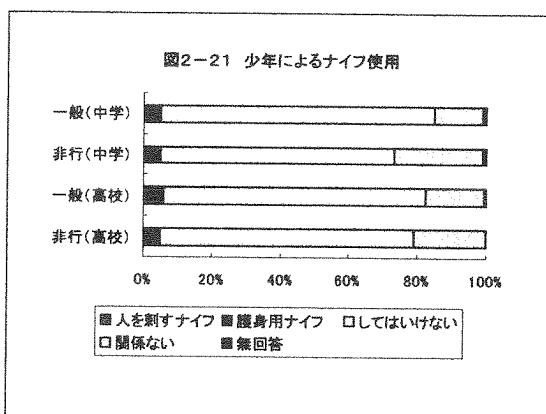
(3) 少年によるナイフ使用

少年がナイフで人を刺すという事件の報道を見聞したと仮定した場合、以下の4つの感想の中から1つを選択するよう求めた。

- ア 人を刺せるナイフがほしい【人を刺すナイフ】
- イ 護身用のナイフが欲しい【護身用ナイフ】
- ウ してはいけないことだと思う【してはいけない】
- エ 自分とは関係ないことだと思う【関係ない】

結果は、図2-21のとおりである。

どの群も事件に触発されてナイフを欲しいと思った割合は低い。人を刺せるナイフが欲しいと思った者は、どの群も0~1%台であり、護身用のナイフが欲しいと思った者も概ね4~5%であった。しかし、してはいけないと批判的な感想を持った者は、一番高い割合を示したのが一般の中学生(80.0%)であり、次いで、一般の高校生(76.8%)、非行の高校生(74.1%)の順になっており、非行の中学生は68.5%で、一般群の中学生と比較して10ポイント以上低い。



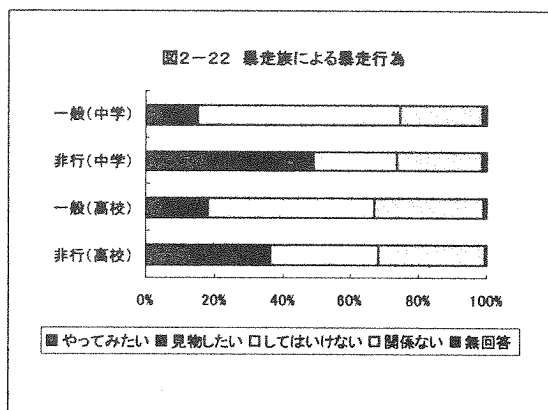
(4) 暴走族による暴走行為

暴走族が深夜暴走するという事件の報道を見聞したと仮定した場合、以下の4つの感想の中から1つを選択するよう求めた。

- ア 自分もやってみたいと思う【やってみたい】
- イ 見物には行ってみたいと思う【見物したい】
- ウ してはいけないことだと思う【してはいけない】
- エ 自分とは関係ないことだと思う【関係ない】

結果は、図2-22のとおりである。

事件に触発されて、やってみたいと思った者の割合は、一般群の中学生・高校生がともに5.3%であるのに対して、非行群では、中学生(18.0%)高校生(13.4%)ともに高い。また、見物したいと思った者も、一般群の中学生・高校生ともに約1割であったのに対し、非行群の中学生が約3割、高校生が2割



強となっております。非行群の方が事件報道に同調しやすいことが示された。

また、してはいけないと答えた者の割合は、一般群の中・高校生が概ね5割以上であるのに対し、非行群では、中学生が約25%、高校生が約30%であった。

(5) 中学生・高校生による覚せい剤(エス・スピード)使用

中学生・高校生が覚せい剤を使用したという事件の報道を見聞したと仮定した場合、以下の4つの感想の中から1つを選択するよう求めた。

- ア 自分もやってみたいと思う【やってみたい】
- イ やっているところを見てみたいと思う【見てみたい】
- ウ してはいけないことだと思う【してはいけない】
- エ 自分とは関係ないことだと思う【関係ない】

結果は、図2-23のとおりである。

どの群も事件に触発されて、覚せい剤をやってみたい・やっているところを見てみたいと答える者の割合は低かった。

しかし、してはいけないと答えた者の割合をみると、一般群の中・高校生、非行群の高校生が7割台であるのに対して、非行群の中学生は59.6%と他の3群より割合が低かった。

